

令和5年度 第2回社会教育委員会議事録

【日時】 令和5年（2023年）10月18日（水）13：58～15：50

【場所】 生涯学習センター2階 市民ホール

【出席委員】

議長	梨本 加菜	委員	臼井 護
委員	加藤 春樹	委員	小林 純子
委員	八矢 信宏	委員	林 但
委員	蛭田 道春	委員	松本 敬之介
委員	山岸 雅人	委員	渡辺 孝夫

【欠席委員】

副議長	櫻井 聡	委員	浦野 千鶴
委員	志村 直愛	委員	武石 太一郎
委員	濱田 恵里		

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃	生涯学習課長	柿原 美奈
同課係長	島内 さおり	同課主任	遠藤 雅弘
同課アシスタント	杉山 一美	中央図書館長	山田 智子
児童図書館長	藤原 敦子		

【オブザーバー】

(公財)横須賀市生涯学習財団事務局長 高橋 直人
(公財)横須賀市生涯学習財団事務局長 大柴 裕二

1. 開会

議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

2. 教育総務部長挨拶

教育総務部長から、挨拶を行った。

定足数について

委員 15 名のうち 10 名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第 4 条第 1 項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者 0 名）、配布資料の確認を行った。

3. 報告

・第 4 次子ども読書活動推進計画進行状況（令和 4 年度実績）について

中央図書館長が報告を行った。

< 質疑応答 >

- 委員 2 ページの（４）幼児へのブックリストの配布部数はいくつか。作成した部数を全て配布したのであれば、3,500 部配布と記載したほうがわかりやすいのではないかと思った。
- 児童図書館長 3 歳児健診の対象者には基本的に全員お渡ししている。そのほかは各図書館・図書室に配架しており、自由に取っていただけるように対応をしている。全て合わせて 3,500 部となるため、「3,500 部作成」と表記している。
- 中央図書館長 3 歳児健診での配布の実績は 2,198 部である。この他、図書室 10 か所、図書館 4 か所、配本所を含めると全 17 か所で配布している。（後日部数訂正有）
- 委員 5 ページ、6 ページの（８）（９）（１０）（１１）は小学生・中学生対象とあるが、高校生はなぜ含まれないのか。
- 中央図書館長 県立や私立を含まれるため高校生には教育委員会として、直接的な働きかけができない。小中学生は市立の小中学校を通して働きかけができるため、対象としている。7 ページの（13）は高校生も含めたものになっている。
- 委員 10 ページの考察について、令和 4 年度から全中学校に学校司書を配置したことにより、数字が上昇したことはとても素晴らしいことだと思った。感激したことを言いたい。同じように感激した一つとして、7 ページ（13）のような事業は継続してほしい。2 ページ（3）について、ボランティア団体へ図書館としてどのような支援を行っているか。
- 児童図書館長 わらべ歌などの伝承文化を語り継ぐ人が少ないという実態があるため、児童サービス講座を図書館で年に 3 回行っている。令和 3 年度から毎年、講習を行い、ボランティアの方が 40 名以上参加している。具体的なスキルの強化を図っている。
- 委員 ボランティアを養成して、活用するという形であることがわかった。
- 議長 6 ページ（10）のボランティアの講座は、小中学校のボランティアか。幼児の読み聞かせのボランティアは別に養成・研修されているということか。
- 中央図書館長 6 ページ（10）の中央図書館のボランティア講座等が、おはなし会などのボランティアを育成するための講座である。

- 委員 10 ページで令和 4 年度の実績が令和 7 年度の目標値よりも上がっているところもあり、喜ばしいことであり、素晴らしいと思った。ただし、指標 6 の中学校の実績が目標値の半分である。令和 3 年度に比べれば増えているが、半分というのは考えられない、何か理由があるのか。
- 中央図書館長 令和 4 年度から全中学校に学校司書を配置したため、まだ読書についての取り組みに力を入れられていない部分もあったと思う。司書の配置によって、令和 3 年度 5 校から、令和 4 年度は 12 校に増えた。司書を対象にした研修や連携会議なども行っているので、目標値に近づけるように取り組んでいきたい。
- 委員 資料に他の市町村との関わりや比較があると横須賀はどうなのかと分かりやすい。素晴らしい結果が出ているので、今後出してもらえるとありがたい。
- 委員 中学校校長として補足する。本校でも中央図書館から図書を借りて子どもたちの学習に役に立っているが、中学生は小学生に比べるとそれぞれの生徒の興味・関心が多岐に渡るため、本だけというわけにはいかない。実際実情としてあるところである。ただ、学校司書が着任した関係で、学校図書館を活用するように、より身近な存在になるように、いろいろな工夫をしてくださっている。例えば、装飾、蔵書の紹介など、とても細かくしてくださっている。それぞれの学校の利用率を見ると、上がっていると想像できる。中央図書館から借りている蔵書はキャリア教育の関係で自分の生き方を見つめるために調べ学習をしたり、国語などの教材の発展に関連する蔵書がないか、教員が動いて蔵書をお借りして、廊下等に置いて子どもたちが手に取って見えるようにしている。この制度はとても助かり、ありがたい事業であるので、発展を望んでいる。
- 委員 10 ページの指標 5 に高校生の数値がなぜ書かれていないのか。
- 中央図書館長 小学生・中学生は毎年行っているアンケートの結果を記載しているが、高校生は、市立総合高校の生徒を対象に令和 2 年度の計画の策定時にアンケートを行っていて、令和 3 年度と 4 年度は調査をしていない。
- 委員 目標値があるのに、空欄なのか。
- 中央図書館長 次の計画策定の年にまた、市立総合高校を対象に調査をしていきたいと思っている。
- 委員 1 ページの(2)「木曜午前はいつでもおはなし会」について、今までは予約制であったが、いつでもどうぞという形にしたことは画期的な試みである。人員の規模やボランティアスタッフなど、どのような形でいつでもおはなし会をできるようにしたのか、詳しく教えてほしい。
- 児童図書館長 今年の 4 月から毎週木曜日の午前中におはなし会を行っている。おはなし会の担当のボランティアが 1 時間半程、在館し、その間に来た来館者で親子単位 1 組から、読み聞かせの希望があれば実施している。来館者の希望の本を読んだり、どんな本がいいかわからない親子連れに年齢に応じたおすすめの本などを提示して行っている。何人かお子さんがいる時は集まってきて、一緒に多い時は 5～6 人で聞いているという形である。「お話の部屋」という靴を脱いで上がれるスペースでこじんまりと実施している。
- 委員 「いつでも」と言うと、気軽に参加できるので、とても良いと思った。担当は一人か。
- 児童図書館長 当番制でボランティアの方が 30 数名いる。年間スケジュールで毎週木曜日に誰が来るか

を決めている。在館するのは一人で実施している。

- 委員 これからますます図書館デビューできる方が増えると良いと思う。
- 委員 母親クラブ連絡会から会議に参加している。横須賀市の委託事業として青少年会館をメインとして年に5回、未就学児向けのイベントを開催しているので、児童図書館と青少年会館は近いので、イベントの時に出張などしてもらえると読書の推進に繋がるのではないかと感じた。直近では、10月22日親子手作り体験で51組100名位参加するイベントがあり、9割が0・1・2歳の参加である。昨年まではコロナの影響もあって、予約制で人数制限もしていたが、今年は制限が解除されて、結構人数も集まっている。今年はすぐなので無理だと思うが、来年度以降、一緒に何かできたらよいと思った。
- 中央図書館長 ぜひ一緒にやらせていただいて、読書活動に繋がればと思う。

(説明委員退出)

4. 議事

・横須賀市民大学講座について

事務局から説明を行った。

- 議長 質問やご意見はあるか。
- 委員 資料2について、個々ではなく、私共の団体で子育て世代向けに講習会やイベントを開催している立場からすると、1ページの「広報活動について」の「出張講座など、地域に向いての講座・イベント開催が市民大学講座のPRにつながる」と、3ページの「受講し易い環境・コース設定」の「子どもを連れて参加できる講座」は実際やってみると、子どもを連れてくる場合は託児施設を用意して講座を開くと、子どもを連れて保護者が参加してくれる。地域でイベントを開催すると、やはり中央地区でやるよりは沢山の受講者が来るなどで、この2点については効果があると思う。アンケート問6の性別については「その他」などを追加したほうがよいと感じた。
- 事務局 アンケートについては、今は「無回答可」という程度の書き方しかしていないので、人権・ダイバーシティ推進課や生涯学習財団と相談をして、回答しやすい項目にすぐに変えさせていきたい。
- 委員 まなびかんニュースや市民大学の情報について、考えられる広報はほぼ網羅されていると思う。私もセミナーや講座の企画運営をしているが、肝心の広報よこすかの情報の掲載量がかなり低くなっていて、申し込んでもほぼ載らないという声が横須賀市内の各施設から非常に多くなっているのは事実である。財団としてできることは恐らくかなり手を尽くして、できているのはわかるが、それでも手が届かない部分があると思う。広報よこすかの紙面の在り方を何かの機会にご検討いただくということがあってもよいのではない

かと思っている。

事務局 広報よこすかの紙面の量が減っているということもあるが、色々な所で色々な講座が開催されたり、様々な新しい事業ができていの中で載せたい項目が多いため、例えば20ページあっても足りないと思う。精査していく中で担当課はかなり苦労しているところであると認識している。市民大学も市の主催事業であるので、全講座を載せるのはスペース的に無理だと思うが、この講座は載せたいなどがあれば、担当課とも話をしていきたいと思っている。また、チラシの配布先について、考えられるところには配架をしているが、自分もなかなか日常生活の中で目にすることが少ないと思っている。送付先一覧以外で良いところがあれば教えていただきたい。まずは委員の皆様は日常生活の中でチラシ等を目にされたことがあるか教えていただきたい。

議長 市民として、この場所にあつたら手に取りやすいなど、ご意見あるか。
委員 配架して取っていただくという方法以外で、市内の商業施設の掲示板は無料の講座に限るという条件付きで2～3週間掲示してもらえるとところもいくつかあると聞いている。個々に掲示をお願いに行く必要があるのでは、市からの一斉の通知依頼は難しいと思われるが、地道な活動が必要かなと思う。情報伝達がプッシュ型からプル型に変わっているのはまさにそうだと思う。広報よこすかは写真ばかりで、見た目はかっこいいかもしれないけど何も載っていない、記憶に残らないとみんなが同じような主旨のことを言っている。市民の率直な印象ということで改めてお伝えする。

委員 市民大学講座のチラシやポスターの送付先の中に市民大学に来ないと言われている働いている人、企業への配布が入っていないが、何か理由があつて外したのか。漏れたのかわからないが、入れておいたほうが良いのではないかと。あと、大学も配布したほうがよいと思うがどうか。

財団職員 企業については、かなり前に市民大学ではないが、生涯学習センターの貸館施設の利用についての案内のファックスを商工会議所をお願いして、各企業に連絡をしてもらったことがあるが、その時はあまり反響がなかった。講座については今までしたことがないので、考えてみたいと思う。大学については、関東学院大学は連携講座を開催しているので、社会連携センターに置かせてもらっている。あとは県立大学と夏季特別講座を開催している。今年も3講座共催でお願いしたので、その講座が載っているものは配架してもらっている。あとは生涯学習センターにパンフレット等の配架をお願いされた際に逆にこちらのを置かせてもらえませんかをお願いしている。できるだけ多くの場所に置かせてもらえるようお願いしていきたいと思っている。

財団職員 補足。まなびかんニュースはかなり多く配架している。市民大学の募集要領はページ数が多いので、印刷して多方面に配るのは難しいところであるが、それをまなびかんニュースでも補完している。企業についても、色々なイベントを通して、企業の責任者の方と知り合う機会があるため、そういう場合にはぜひ今後置いてほしいをお願いしているところである。例えば、ノジマモール横須賀はイベントの中で名刺交換をし、配架をお願いしたところである。少しずつだが、配架先を増やしていき、今後も広報活動の充実を進めていきたいと思っている。

- 委員 今、周知の媒体をペーパーと電子でまとめているが、一番効果があるのは対人周知だと思う。市民大学には参加できない人も趣味やイベントには参加している。自分の興味のあるものには参加できるということである。年齢や参加できない理由を層別にして、ターゲットをきちんと絞った上で対人周知をすることで深掘りすることができるのではないかと考える。
- 委員 まなびかんニュースは高等学校には配布しているのか。今話題の将棋や囲碁など高校生でも参加できる講座の情報があり、県立や私立高校など、もう少し幅を広げるとよいのではないと思う。企業関係や市として行政関係、公共機関を中心にしながら、民間関係にも配布しているということだが、一番目にするところでも、チラシやポスターはチラッと見るだけになってしまうため、まなびかんニュースの配布先をもう少し検討することも一つの方法だと思う。
- 委員 以前も話したが、40歳代、50歳代は平日昼間は仕事をしていて、土日は休息という人が多いと思う。時間的にも人生で一番忙しい時期であると思う。市民大学が開設されて、受講者を募集する時期にターゲットに集中的にお知らせをして、全市内で受け止めることができているならば、今参加する時間がない人でも参加できる時に参加しようと思うかもしれないので、PRを続けることは必要だと思っている。もし、ターゲットを絞りながらそのような形でということであれば、まなびかんニュースとは違ったタイミングの取り方をとったほうがよい。どうしても、市の施設を中心に捉えがちになっていると思う。今は市の施設が多いと思うが、一步進んで、市民の目に触れやすいところを考える、例えば商業施設にあるとよい。もっと大事なのは横須賀でこのような素晴らしいことをやっているという横須賀の良さを市外の人にも知ってもらってもいいのではないかと。例えば、市外の人が多く来るトライアングルの窓口や川崎、横浜などに配架できたらまた違って来るかもしれない。ターゲットを横須賀市民に捉えるが、もうひとつ目先が変わるような捉え方をしてもよいのではないかと感じた。
- 委員 1点目、まなびかんニュースは京浜急行の汐入駅や横須賀中央駅などに置いてあった。勤務時代に出退勤の際に取っていたが、市民大学講座の案内はなかったがなぜか。2点目、まなびかんニュースは何万部作っているのか。3点目、アンケートの満足度について、0点から100点はありすぎて、曖昧な点数になるかもしれないので、よくないと思う。4段階位に分けてはつきりさせたらよいのではないかと思った。
- 財団職員 まなびかんニュースは月に10,000部程度作成が基本で、増刷する時が2回ある。
- 議長 市民大学講座の案内は何部作成しているのか。
- 財団職員 市民大学講座については最初に3,500部作成し、館内用が足りなくなったら、500部ずつ追加し、結果的には4,500部位作成したと思われる。京浜急行の駅にはまなびかんニュースは昔から配架してもらっている。ポスターも1回貼ってもらったことがある。
- 財団職員 京浜急行では、まなびかんニュースだけは無料で、それ以外は有料という話になっている。
- 議長 将来通えるといいなと思っていただけるようにインパクトや印象に残すためにまなびかんニュースや市民大学講座についてレイアウトのデザインなどで差別化を図れるとよい。

市民大学講座は大学っぽく、まなびかんニュースは親しみやすくなど、今も工夫されていると思うが、広報のデザインやレイアウト、ロゴマークの統一性など、親しみやすく、手に取りやすいようにするとよいと思うが、いかがか。

委員 現実的にまなびかんニュースを多くの場所に置いているということだが、それを市民がどのように手にしているかというところの想像力を持たないと意味がない。高校へ送るといいう話が出ているが、現実的に高校生はこの情報を欲していないので手にしないと思う。学校は情報がとてもたくさんあり、高校は廊下に進学情報が多くあり、その中に市民大学講座があっても高校生の目には触れないと思うので、あまり意味がないのではないかと感じる。大学の場合は、その講座に関係する学部などでないと興味を持たないのではないだろうか。商業施設や京浜急行の駅に配架しても、大学生などへの効果は厳しいと思う。ポスターのほうがまだ目にするのではないか。神奈川県のレストランには左上に必ず、「神奈川」という統一されたマークがある。横須賀のマークはバラバラなので、神奈川県のようにルールがあることは大事な気がする。

委員 配架先施設に行ったことがあるが、配架先で見たことがないし、取ったこともない。効果があるのか疑問である。私共、横須賀市老人クラブ連合会で機関紙を出しているが、サポセンや市役所に10部ずつ配架してもらい、5部はけたら5部追加することになっている。横須賀の写真を表紙にしているので、手に取っていただける方が多い。

委員 まなびかんニュースの話が重点になっているので、まなびかんニュースから一度離れて、市民大学講座を知ってもらうためには、今のリストだけでよいのかというところから話をしていけないといけないのではないか。

委員 紙媒体や機関媒体だけでなく、対人周知という方法をとらないと浸透しないのではないかということの問題提起させていただいたが、話がその方向に進まなかったため、もう一度言わせていただいた。

委員 少し時間がとれたので、生涯学習センターの中を歩いて見てきた。まなびかんニュースは今まで見てきたと思うが、ポスターは見ても訴えてこないのが、具体的に知りたい時はまなびかんニュースを見るしかない。実際に講座に参加してみたら、参加者のほとんどがファンだった。ファンの方が重なっていて、他の人に伝えられるように広がっているのかがわからない。講座はお金を結構取られるが、毎回ファンが多く、固定化している。受講したいと思った時に、情報としてはチラシだけではしょうがない。まなびかんニュースを見ないというのであれば編集の仕方を変えたほうがよい。市の広報紙に載らないことを考えると、まなびかんニュースが唯一の媒体であるので、どのように生かすかという話への発展が必要である。人と人ということも大事だし、内容や媒体の使い方をどうしていくかということにも話が行くと思う。高校に送った場合に、学校の担当者に貼ってもよいか、内容が伝わるかどうかの判断をしてもらうことが大事である。

委員 実際、学校に担当者はいない。事務的に来たものを貼るだけである。

委員 社会教育、生涯学習、学校教育が分かれていて繋がらないため、伝わらない。媒体をどのように繋げていくかを話すといい。

議長 媒体としてまなびかんニュースには魅力的な情報が入っている。しかしファン以外にとつ

てはなかなか中を開くまではいかないの、まずはファン以外の人に知ってもらう、足を向けてもらうきっかけ作りをすることが大きな課題になってくるかと思う。学校や先生を介して、人づてに伝わっていくものなのか、場合によっては私はデザインやレイアウト、読みやすさが重要だと思っている。新しい層に訴えるデザイン力などが必要なのではないかと思う。余談だが、勤務先の鎌倉女子大学にも案内がたくさんくるが、学生センターの配架ラックは上にどんどんお知らせが重なっていくので、結局、下のほうにあるものは見えないなど、場所的な限界がある。どのように検索をしていくかとなった時に、ネット検索が挙げられる、まだ全く形にはなっていないが、AIを使って質問をすると知りたい情報をデータとして得ることができるという技術を使った工夫も一案ではないか。今のAI技術を使うことで便利になることもあるのではないか。資料2の1(3)の受講するメリットの効果的な伝え方について、ご意見はあるか。

委員 メリットを対人的に伝えることは大事だと思う。受講アンケートをもう少し活用して、質問に「こんなことができるようになった」「具体的にはこんな改善点が見られる」などの書き込みができるような項目を作ってもらえるとよい。それを具体的に広められるようなPRの仕方を考えてもらえれば違うと思う。

委員 1対1の周知ではなく、対人周知の例として、芸術劇場でオペラを開催するときオペラの講座のPRをしたり、高齢者向けの健康面の講座の時に健康に関する講座について周知すれば参加者は食いつくと思う。商業施設は買い物をして帰ってしまい、チラシに目が留まらず素通りだと思う。素通りさせないために、興味ある人に興味あることをPRしないと食いつきが悪いと思うので、そのようなところを深掘りしていただきたい。

委員 問題提起をしたいと思うが、大きく2つに分けると、1つ目は主催者として広報戦略をどうするか、2つ目は受講者のメリットやモチベーションの状況を把握することがヒントになると思う。今年度は財団の収支は改善して、受講者も増えている。受講者の中心である75歳位のピークがそれほど動いていない。受講生が固定、一定していればそのまま動くはずであるが、それほど動いていないため、毎年新しい受講者がいるということである。具体的な話は小委員会で、方向性を整理して、全体で揉むという形がよいと思う。

委員 目的を持っている人であれば、まなびかんニュースを手取るが、全く知らない人にターゲットをおくのであれば、チラシがあつて、さらにまなびかんニュースに繋がっていく戦略にしたほうがよい。年齢層、人口層、子育て世代、65歳以上の方、全く知らない人など、どこに戦略を持っていくのかを明確にしたほうが良い。

委員 市民大学は年齢の制限があるのか。20歳以上か。

財団職員 小学生対象講座など一部を除き、年齢による制限はない。

委員 関心があれば高校生でも受講できるということである。各年齢層に働きかけるプッシュ型とプル型が大事である。出前授業での説明も必要である。きっかけがないと読まないし見ない。学習行動プロセスという言葉を使うが、それぞれの年齢、ニーズに合ったきっかけをどのように作るか。カレーフェスなどできっかけを作るなどするとよい。

委員 日常でインスタグラムやSNSをよく見ているが、昨日興味ある広告をスクリーンショットして保存をした。投稿してない人の情報や投稿も見ることができる。ターゲットを絞つ

- て、インスタグラムなどで広告を出して反響があるか試してもよいのではないか。
- 財団職員 皆さんからいただいた意見で活用していけるものは活用していきたい。インスタグラムなどは画像を魅せるスキルを持った職員も必要であり、難しいところはあるが、できることは取り組んでいきたい。
- 委員 ウェブ検索すると、興味を持っていることがバナー広告で上がってくると思うので、バナー広告もよいと思う。
- 財団職員 なるべく経費をかけない方法でお考えいただきたい。
- 委員 結局、ニーズがどこにあるかを知るためには過去の履歴を整理する必要がある。それからターゲットを絞るべきである。
- 委員 まもなく、コミュニティセンターの文化祭が始まるので、文化祭でPRするなど、実際に動きやすいところからPRしていくことが効果的ではないかと思う。
- 議長 ターゲット層を広げるという点で、障害のある方の就労支援の事業所やフリースクールなど、情報の届かない人にも届くような配慮があれば、そのような方々にとって、大きな一歩になることもあるし、効果があるのではないかと思うので、いくつかのシナリオやきっかけを作ることが肝心になってくるのではないかと思った。本日の会議で市民大学講座の周知に関する事、拡大したい受講者の年代層に関する事柄が見えてきたのではないかと思う。次回の第3回からは、今までの審議内容をある程度提言の形にまとめていくことになる。今までいただいた意見と本日いただいた意見を基に、小委員会での検討も行いながら練り上げた提言案について、後日、事務局から連絡する。

5. その他連絡事項

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和5年 月 日

議事録署名人